

校友会報

110



目次

会長就任のご挨拶

丹羽 宏之……………1

校友会に期待するもの

高山 英華……………2

松浦 隼雄……………3

開発本部の現状と将来

工学院大学開発本部…………4

今井先生の文化勲章受章

北郷 薫……………7

随 想

今井 功……………8

近況報告……………9

学校法人・大学

専門学校・高等学校

第8回全国大会(富山大会)

開催の報告……………13

前会長のご挨拶

足立 剛一……………14

支部だより……………15

校友会新役員……………15

部会報告……………16

総務部・財務部・企画部

事業部・組織部

学園創立百周年記念事業

募金状況について……………18

校友会創立90周年記念式典及

祝賀会開催のお知らせ…………18

校友会だより……………19

総会開催のお知らせ……………20

昭和63年度事業報告書…………20

収支計算書……………21

貸借対照表……………21

財産目録……………21

平成元年度事業計画(案)…………22

収支予算書(案)……………22



ご挨拶

校友会 会長 丹羽 宏之

若葉萌え、風薫る陽春の季節となりました。

会員の皆様には益々ご健勝でご活躍のことと拝察し、海に大慶至極に存じます。

この度、不肖、私は図らずも会長という大役をお引き受け致しました。

もとより、浅学非才の身ではありますが、足立剛一前会長の後任として校友の皆様のご支援の下に、校友会の発展のため、さらには学園の発展のために微力を捧げる覚悟であります。

第二次世界大戦を挟み、戦前、戦中、戦後という60余年の長きに亘った昭和が終焉し、平成という新しい時代の幕開けを迎えた今日、我が母校、工学院大学学園も21世紀へ向けて、画期的かつ独創的な教育ビジョンを掲げた都心型大学として、ここ新宿の地に、29F建ての高層ビルとなって変容しようとしております。

新宿移転の決まった都庁新庁舎も亦、大学を取り巻く、高層ビル街に建設中であり、工学院大学校地の環境は、都庁新庁舎を加えて行政、経済、情報の中心、さらには新しい教育の中心となり、しかも一躍、日本の中心から世界の中心になろうとしております。

今年夏に完成する大学棟につづいて、専門学校棟に当る中層棟を建設した後、最先端企業を対象としたオフィス棟が平成4年度には完成し、所謂、大学棟とオフィス棟とのツイン高層ビル構想が、一街区を形成して全く新しい教育ゾーンに生まれ変わります。

より高度の教育の充実と、先端ビジネスに実践教育を活かし、21世紀へ向けての新しい教育を創造しようと試みる学園再開事業は、まさに類例のない先駆者的な教育理念に基づく大事業であって、校友にとっても希望と期待に胸膨らむ思い一杯であります。

将に、隔世の感があります。

1888年(明治21年)、本学の前身、工手学校が創設されて以来、雌伏100年有余を経て、名実共に、世間に誇るに足る新生工学院大学学園が誕生しようとしているのであります。

永々として築いた学園関係者、大先輩の有名無名の貴重な遺産を、新しい時代に反映させて全く新しい高層ビル大学学園として愈々船出する平成元年は、私共校友にとっても洵に意義深いものがあります。

また、この平成元年は、校友会創立90周年を迎え、今秋には新大学棟の完成を祝い、記念式典と併せて盛大な懇親会を開催する予定であります。

略々10万人と謂われる数多くの卒業生が、広く産業界で活躍されているという校友の偉大な力を、来る校友会創立90周年祝賀会に向けて結集しようではありませんか。

ところで、既にご承知の通り、大学学園では、学園創立100周年事業の一環として事業資金募金運動を進めており、校友会も亦、積極的に支援協力しております。

3月末現在、校友会会員よりの募金は、1億円を突破致しました。ご協力賜りました校友の皆様には心から御礼申し上げますが、まだご寄付前の方は、額の多少に拘らず、是非ともこの際ご協力賜り度お願い致します。

このように、大学学園が目指ましく発展し、前進しようとしている昨今、伝統と歴史のある私共の校友会も、その組織を結束、強化し、そして拡大して大学学園に対して従前にも増して積極的に協力すべききわめて重要な時機に來ていると思います。

限らない母校愛を内に秘め、より大きな校友の環を求めて、校友会の大いなる発展に、皆様のご支援、ご協力、そしてご指導を賜り度ここにお願い申し上げます。

(大学 工業化学科 昭和29年卒)



校友会に期待するもの

学校法人工学院大学理事長 高山 英華

平成元年の新しい年度を迎えました。工学院学園もいよいよ発展の基盤を固めなければなりません。

新宿校地の再開事業も順調に進行して、平成元年の夏には待望の大学棟が竣工する予定です。これは全体計画の第一部に当るものですので、専門学校と大学と一緒に使用することになって、まだすっきりとはしませんが、校友会の本拠地は最上階に入ることが出来ると思います。

新宿校地はさらに第二期、第三期と工事を進めて完成の予定です。

八王子校地も研究棟の一部を着工完成させますし、高等学校も新しい組織で整備拡充を続けていきます。

専門学校も過度期には両国に校舎を借りて通学は支障のないようにしています。

学園全体としては、大学、高校、専門学校が一体となって内容を整備しなければならない段階にきたわけです。

百周年記念事業についても、校友会などの御努力によって、着々と募金を増しています。

今後とも一層の御援助をお願いする次第です。

さて校友会も、百周年記念募金を機会に、大学、高校、専門学校の卒業生の皆さんの全国的組織と

名簿を整備していると伺って居ります。

今後はこれら資料を活用して校友会全体の連絡をさらに深めていただけたらと思います。

地方に居られる校友諸氏も新しい母校を拠点として情報の交換を深め、一方的な情報の流れではなく、地方から情報の発信を強め、母校の拠点をいろいろの面で活用していただきたいと思えます。

また、東京に居られる校友の皆さんも、第一線で御活躍のお忙しい方々も、その社会的地位を十分に発揮され、母校の発展に物心両面で積極的に御参加を願いたいものです。母校に度々たちよられて、学園の発展に尽されることお願いするものです。

工学院の学園も新宿と八王子の校地をさらに活用して一層の発展を計画しています。

学園経営にむずかしい時代を迎えますが、独自の行き方を確立して、新しい情報化社会、国際化社会、生涯学習社会へと充分に対応することを考えています。

今後とも校友会の発展充実を願うとともに、学園と一体となった御協力をお願いする次第です。

新宿校地再開発事業の現状と今後

学校法人工学院大学開発本部

の選定については、学園に一任されております。
現在、第一期工事は、順調に進行しており、研究室、教室等の階層の配置も決定し、1989年7月末に完成する予定です。

1987年7月7日に起工式を執り行なって以来、1988年6月29日に立柱式を行い、本年3月3日上棟式を挙行致しました。これも一重に皆様のご協力の賜と深く感謝申し上げます。

いよいよ今夏には、新宿西口の高層ビル街に29階建ての新大学棟が新しい任務を持って参加することになるのです。

2. 第二期工事関連

第二期工事は、専門学校が入る中層棟（8階）およびオフィス棟（28階）の建設です。中層棟は、1992年2月に完成予定ですが、中層棟完成までは、大学棟の一部と両国国技館の近くにあるビルを一時借用して専門学校授業を継続するよう準備を進めております。

1992年4月に完成予定のオフィス棟は、既設テナントが入居する他は、学園の権利持ち分（基準階3層分）を含めて単なる貸しビルとはせず、上述の街区全域の考え方による情報提供の複合体として、学会セクター、メーカーセクター、ソフトウェアセクター、情報提供サービスセクター、



学校法人工学院大学
常務理事開発本部長 松浦 隼雄

私が開発本部長に就任して一年が経過しました。その間関係各位のご協力により新宿校地の再開発については何とか見通しが立てられるようになりました。

第一期工事（大学棟）は本年7月末竣工の見込みです。後期の授業は新校舎で行なわれますが、本来大学が使用する筈の教室等を割いて、専門学校が同居する変則的な使い方をします。真の意味で新校舎が完成するのは第二期工事（中層棟およびオフィス棟）が終了する平成4年4月になります。引続き第三期工事（公開広場）に着手し、街区全体の工事が完了するのは、今から5年後の平成5年度末と予定しています。

その間、専門学校の一部は両国校舎を使用する等、大学・専門学校を問わず、大変窮屈な環境に耐えねばなりません。しかし、これは本学が特色のある「都心型大学」に生まれ変わるための創造の苦しみであります。

新校舎を建てることだけでユニークな大学になるわけではありません。この機会を把えて学園を革新するための諸施策を実行して始めて実現する目標が「都心型大学」であります。

そのために先ず、共同事業者である日生・第一両生保の同意を得て、高度情報学園街区を形成する努力を進めております。即ち、オフィス棟を単

なる貸しビルとするのではなく、情報関連の学協会や企業・団体の入居を勧誘して、この街区を東京でもユニークな情報発進基地にする構想であります。

次には、本学がそのような街区の中心に位置する利点を活用して、これからの社会の要請に即応するように、教育内容の刷新向上を断行しなければなりません。これは全学を挙げて慎重かつ果敢に当たるべき施策でありますので、私としては学長を補佐して辛抱強く推進する所存です。

一期二期の設計見直しに当たって、私は学生ならびに校友からの視点を強調しました。その結果、学生諸君が学園生活を楽しめる憩いの場を確保できるようになりました。また大学棟最上階はファカルティ・クラブとして教職員・学生のみならず校友各位が随時参集できる交流の場とします。

私はこの機会に校友各位と学園のきずなを少しでも太くしたいと念願しています。新宿校地再開発は昭和3年以來の別天地に安住していた本学が世間という荒波に晒されることを意味します。広い世間で工学院を守り育てるのは現役の教職員と校友各位しかおりません。あとは赤の他人です。皆様の母校の発展のために校友各位のご理解と絶えることのないご支援をおねがい申し上げます。

(89.2.22)

●開発本部の現状と将来

生涯教育セクターの5つのセクター別に具体策を検討しています。既に、情報処理学会、鉄道総合技術研究所、日本IBM等と具体的に折衝中です。

また、現在、第二期工事の基本設計が出来上り、実施設計の検討を進めております。

3. 第三期工事関連

第三期工事は、特定街区による公開空地(広場)及び広場下の完成です。公開空地は、地域社会との連携を保ちつつ、学園街区の特色を生かしたものとしたいと考えております。また、広場下には駐車場とともに情報街区としてのショールーム設置を計画しております。第三期工事は、1994年3月に終了する予定で、この工事が完了しますと、新都心新宿の地に新しい学園(新宿校舎)が完成することになります。

以上、開発事業に関する今後の展望を含めた現状の概略を述べましたが、建物を新しくすることもさりながら、要は、「新生」と呼ぶにふさわしい将来展望を持った他に類例のない学園像を構築することです。

特定街区に建つ3つのビルは、孤立して存在するものではなく、それぞれの機能に応じた連携を保ちながら学園を中心に複合体(コンプレックス)ビルとして新都心新宿に参画していくのです。

これは言うに易しく、行なうに難い問題

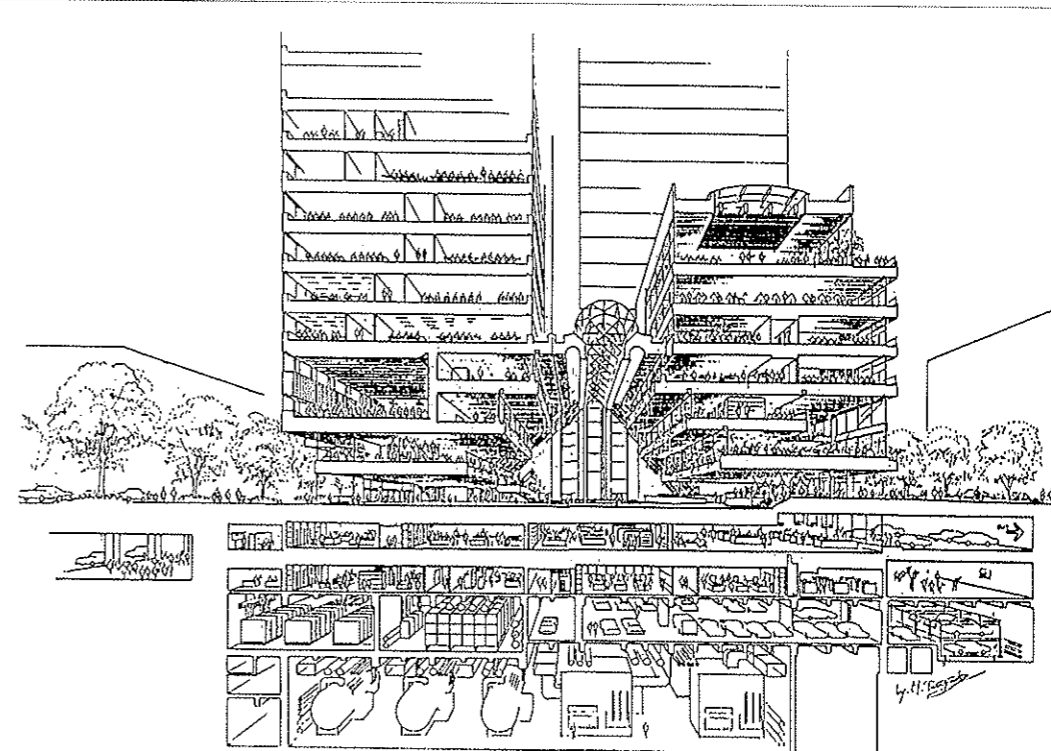
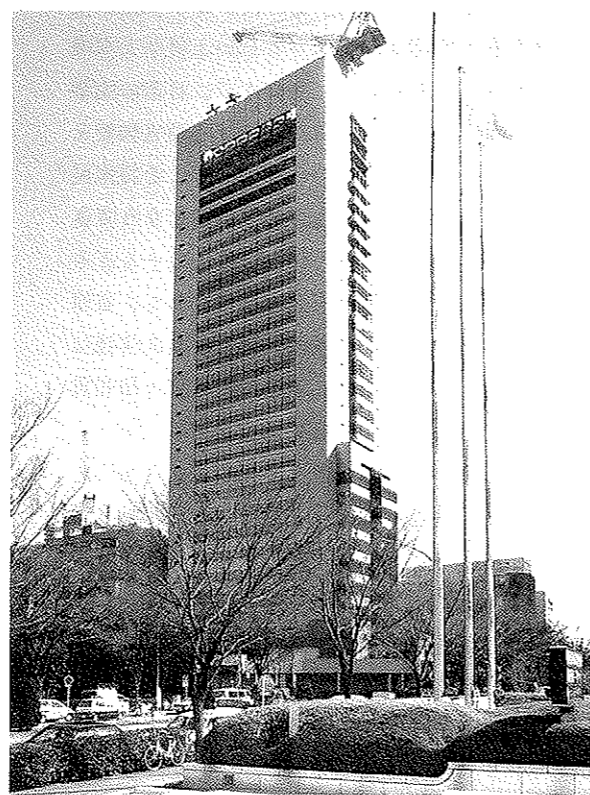
ではありますが、旧弊を打破する勇気と決断とを学園構成員が持つとともに、校友の皆さん方の強力なご支援を仰がなければなりません。

そのためにという訳ではありませんが、新大学棟の28階に校友の皆さん方を始めとした教職員、

学生とそのO.B.とが交流する場としてファカルティークラブ(仮称)を設置する予定です。

このファカルティークラブ構想が、全国的なネットワークを持った学園関係者の連帯のための機能を発揮し、それが母校への強い絆となることを期

待します。



アトリウムのパース 大学棟と中層棟の間に自然採光を取り入れた緑豊かなアトリウムがあります。この空間は、学生を中心としたイベントプラザとして利用出来るコミュニティー空間です。学生ばかりではなく、地域社会にも解放して学園街区の中核的役割を担うことになるでしょう。

今井先生の 文化勲章受章

工学院大学学長 北郷 薫
校友会顧問

工学院大学名誉教授今井功先生は、昭和63年度の文化勲章を受章されました。伝達式は昨年11月3日に皇居・宮殿で挙行され、皇太子殿下御隣席のもと竹下首相より文化勲章が今井先生に授与されました。この名誉はまず今井先生ならびに奥様はじめ御家族、さらに今井先生がこれまで研究・教育に従事してこられた東京大学、同航空宇宙研究所、大阪大学に属するものでありましようが、今井先生が昭和53年以来、10年近くの年月にわたり勤務され、研究・教育に従事された工学院大学の名誉でもあります。われわれ工学院大学の校友会会員一同は心より今井先生に祝辞を申し上げます。

今井先生は旧制第一高等学校より東京帝国大学理学部物理学科に入学、昭和11年3月に同科を御卒業になり、直ちに大阪帝国大学に勤務されましたが、同13年に東京帝国大学理学部講師として母校へ復帰、同17年助教授、同25年教授、同50年名誉教授となり、同50年4月より同53年3月まで再び大阪大学へ御勤務の後、同53年4月に本学の教

授として御就任、同62年3月まで本学で研究・教育に御精励されました。

この度、今井先生が受賞されました理由は、先生の流体力学研究上の成果であります。(流体力学に関する研究に於ける業績については、大学の学園広報紙「窓」第75号で、詳しく述べましたので、紙面の都合で割愛します。)

今井先生は、現在でも内外の学会の指導的立場にあり、国際的な活動を続けておられるのみならず、第一線級の研究を遂行されていますが、このことこそわれわれが最も尊敬してやまないところであります。

今井先生の御健康と今後の御活躍を御祈りするとともに、先生の御功績には遠く及ばぬこととは知りながらも、われわれ校友会員一同はそれぞれの分野において研鑽努力いたしたいと存じます。

大学名誉教授 功先生文化勲章受章



随 想

工学院大学名誉教授 今井 功

平成元年2月24日、新宿御苑で行われた昭和天皇の「大葬の礼」と「葬場殿の儀」に私も参列することができた。細雨そは降る寒い日で、火の気のほとんどない幄舎はとても快適とはいえないが、私にとっては感銘の深い儀式であった。とくに、葱華葎が幄舎の前を葬場殿に向って進御するときの荘重で優雅な情景は心に残るものであった。

葬列の発進がアナウンスされて暫くすると、サッサッサという音が近づいて来る。やがて目の前に葱華葎が現われる。50人ばかりの古典的な装束の人にかつがれた霊柩をお載せした輿である。その側方を儀仗隊が静かに歩む、その腕の振り方の優雅さと、輿をかつぐ人達の小刻みの早い足どりの対照はふしぎな美しさを感じさせる。リズムカルなサッサッサの音は輿をかつぐ人達の砂を蹴る足音であった。

大葬の儀式に先立ち、私は1月21日の「殯宮拝礼の儀」と2月3日の「殯宮祇候」で、宮中「松の間」で昭和天皇のお柩にお参りしているので、「大葬の礼」はいわば総仕上げの感慨があった。この折々、とくに2月3日に陛下の柩に静寂の中で約40分間祇候したとき、亡き陛下について思うことが多かった。はじめて陛下にお目にかかったのは、昭和34年5月、学士院恩賜賞を頂いたときであった。午餐を賜ったとき、陛下の隣は橋本竜伍文部

大臣、その隣に私は席を占めたが、橋本文相とのお話しの中で、「日の当たらない分野の研究者を鼓舞することが重要」という趣旨のことを話しておられたのが特に印象的であった。これは正に私達の日頃の感想である。お言葉のうちに、なにか兒貴分といった感じがして、陛下がごく身近かに感じられるようになった。昨年11月3日、文化勲章を頂いたときの記者会見の席上で、つい「敬愛する兒貴のような……」という言葉が口にして、後で仲間の連中に、「不敬のことばではないか」とからかわれるようなこともあった。しかし、私にとって、この「兒貴」という感じは脳裏に刻みこまれ、終生変えることはないと思う。勲章を頂いた「松の間」には、はからずもその後、霊柩の安置される殯宮が設けられることになった。殯宮に祇候する間も、亡き陛下のお言葉がありありと想い出されるのであった。

敬慕する昭和天皇を身近かでお送りすることができたのは、私にとって本当に幸せであった。そして、昭和最後の約10年間を工学院大学で愉しく勤務することができたのは、文化勲章の受章に結びつき、そして「大葬の礼」への参列につながるようになったと思う。

葱華葎の進むサッサッサの音と儀仗隊の優雅な手の振りの微妙な調和は、当日の寒さとともにいつまでも心に残ることであろう。

●近況報告

学校法人

本学園関係者の文化勲章、叙位・叙勲等受賞について
(昭和63年4月～12月)

尾佐竹御理事が勲二等瑞宝章、松浦雄常務理事が勲三等瑞宝章(昭和63年春)、故西野治名誉教授が正四位(8月25日付)、今井功名名誉教授が文化勲章、山村昌電気工学科教授が勲二等瑞宝章、山内那比古名誉教授が勲三等瑞宝章(昭和63年秋)、高等学校外山昭二教諭が昭和63年度東京都知事表彰(学校教育功勞者、10月1日)、高等学校山下慶人教諭が八王子市市民文化表彰(学校教育功勞、10月1日)を各受賞しました。

日本学士院会員補欠選定について

山村昌電気工学科教授は、昭和63年12月12日に行われた日本学士院会員補欠選挙において、日本学士院の新会員として選定された。

下記のとおり寄付がありました。

日本電気(株)C&C情報研究所から、電子工学科言語実験室としてNEC製ミニコンピュータシステムMS140一式(27,930千円相当)。(株)ニレコから、生産機械工

■賛助会費納入のお願い

校友会 会長 丹羽 宏之

本会員の皆様には、校友会事業活動に対し常々御協力御援助を賜わり厚く御礼申し上げます。

校友会の活動充実のための運用資金援助として皆様より賛助会費納入をお願いしておりますが、元年3月の理事会にて規定の一部を改め、より一層のご協力を頂きたく振込用紙を同封いたしましたのでよろしくお願ひ申し上げます。

別紙振込用紙にて会費を郵送して頂くことで、賛助会員の登録手続きをさせていただきます。

学科新宿校舎高分子材料実験室用として射出成形計測専用装置モバックM210本体1台(2,500千円)。本学専修学校建築科第118回卒業生、樋口利一殿(樋口工務店代表取締役)から、昭和62年度大学及び大学院卒業生に、自著「現代に生きる旅-みつげよう考え方-」1,470冊(1,911千円相当)。社団法人工学院大学校友会富山県支部から、第8回全国大会(富山県大会)記念として木彫獅子頭(ケース付)一基(評価額500千円)。大学後援会から、大学卒業式祝賀会援助金として5,000千円、大学学生の福利・厚生のための指定寄付として13,200千円、八王子校舎環境整備費用として23,000千円。

創立百周年記念事業募金申込状況について

平成元年1月31日現在

申込件数 6,568件

申込金額 466,397,146円

■賛助会費取扱い規定(改定)

本規定は定款第6条(賛助会員は、この法人の目的事業を後援し、5万円以上の寄付金を寄附した者)の他本会員の賛助会費について定める。

第1条 賛助会費を次の条件で分納することができる。

1. 毎年3,000円以上を納入すること。
2. 合計が5万円以上になるまで毎年払いにつづけること。

第2条 賛助会費は次のように使用する。

1. 70%は積立てて目的を定めて理事会の承認を得て使用する。
2. 30%は交付金として納入者の所属する支部へ交付する。
3. 交付を受ける請求期限は納入年度の翌年度より2年とする。

第3条 交付金は明細を年1回支部長に通知し支部長の請求により交付する。

平成元年3月17日 第4回理事会改訂

大学

●再開発計画に向けて

新大学棟の竣工(平成元年7月末の予定)を間近かにひかえ、大学はいま都心型大学の創造に向け、鋭意検討をしている。なかでも都市圏に校舎があることの特性を生かした教育・研究の内容改革は本大学に課せられた命題であり、学長を始め教授総会構成員のもとで、多面的な検討が繰り返し行われている。

当面の課題の中には、「新しい夜間教育」、八王子に建設予定の「総合工学研究棟」「大学院の充実」計画等がある。

これらは学園将来計画大学実行部会等において検討が加えられており、近い将来学園が標榜した都心型大学の内容に即した諸計画案が提示され、実行に移せることになろう。

●入学志願者状況

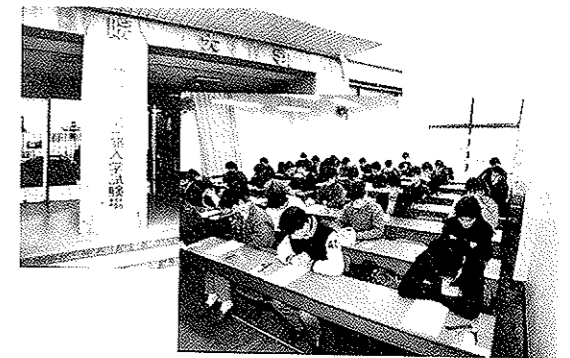
1989年度の大学第一部入学試験は2月6日～9日の4日間にわたって行われた。志願者数は理工系私立の多くが減少したにもかかわらず、本学は前年比3.7%増の17,458人となり、入学定員に対する平均倍率は19倍であっ

た。なかでも電子工学コース、情報工学コースの志願者の増加が著しかった。

●就職状況

63年度の就職状況は、求人会社数6,609社、上場企業の求人率は前年比25%増となり、超売手市場となった。すでに卒業予定者全員の就職が決定しているが、特に首都圏の上場企業への就職者の増加が目立った。

この就職戦略に重要な役割を課しているのがO・Bである。企業の求める人材などをO・Bに語ってもらい業界の動向、企業選択など、就職活動全般について貴重なアドバイスを受けており、O・Bリクルータの活動が際立った年と言える。



1989年度 入学試験結果(一般入試)

部	学科・コース	定員	志願者数	競争率	前年比増減数	受験者数	合格者数			実質競争率		合格点	
							正規	追加	計	64年度	63年度	最高点	最低点
第1部	機械系学科	230	3,784 (17)	16.5	▼ 72	3,695 (17)	679 (4)	— (—)	679 (4)	5.4	5.7	273	177
	工業化学科	120	1,564 (107)	13.0	▼ 102	1,542 (105)	349 (38)	29 (3)	378 (41)	4.1	4.9	252	160 (157)
	化学工学科	80	868 (40)	10.9	82	845 (36)	200 (9)	61 (3)	261 (12)	3.2	4.1	243	171 (161)
	電気工学科	130	2,044 (11)	15.7	▼ 625	1,994 (11)	370 (4)	— (—)	370 (4)	5.4	6.6	232	152
第2部	電子工学科 電子工学コース	140	2,594 (51)	37.6	619	2,545 (50)	292 (8)	15 (0)	307 (8)	8.3	5.5	263	183 (181)
	電子工学科 情報工学コース		2,672 (118)		786	2,589 (106)	160 (4)	24 (0)	184 (4)	14.1	7.9	244	181 (178)
	建築学科	220	3,932 (255)	17.9	▼ 67	3,837 (243)	383 (21)	— (—)	383 (21)	10.0	7.0	241	163
合計		920	17,458 (599)	19.0	621	17,047 (568)	2,433 (88)	129 (6)	2,562 (94)	6.7	6.1		

(注) 1. ()内は女子内数。 2. ()内は追加合格者の合格最低点。

●近況報告

専門学校

63年度主要行事

本年は、球技大会に代わる正課の体育授業（昼間部）が軌道に乗りました。夏季学外体育として、バレーボール、硬式テニス、卓球、サッカー、ソフトボールなどは、山梨県の忍野村で4泊5日の合宿授業、水泳は八王子高校プールでそれぞれ行われました。冬季学外体育として、スキーが菅平にて同じく合宿授業として実施されました。また秋季恒例の第41回製図・作品展は、11月25日～27日の3日間、仮設中庭校舎で開催されました。各科の出展作品を中心に例年通り盛大に行われ、旧校舎での最後の展示会となりました。さらに、6月の父母会総会（昼間部）、7月の電卓検定試験、各科主催の資格受験講習会の随時実施なども定例の行事でした。

63年度就職状況

景気の好調を反映し、544名の求職者に対し、延5503



社、8530人（前年比で35%増）の求人がありました。主な就職先は、日立製作所2人、日本放送協会、富士通、日本IBM、三洋電機各1人、清水建設17人など資本金100億以上67人、理研ビニール工業、日本電子機器各3人、TDK2人など10億以上74人、大塚商会4人、東光電気工事3人など1億以上168人で、公務員も11人でした。2月末現在で、就職内定者530人中、資本金10億以上の会社が27%で、1億以上58%、1億未満40%、公務員等2%の就職先分布となります。なお、就職した学生の業・職種別初任給（諸手当込み）は下表のとおりであった。

業・職種	初任給	最高	最低	平均
建設・施工技術		199,000 ^[1]	140,000 ^[1]	158,107 ^[1]
設計監理		170,000	120,000	145,571
土木測量・調査・設計・施工監理		181,000	131,000	149,000
建設設備・設計・施工監理		165,000	138,000	151,500
施設機械・保守サービス		198,000	120,000	145,322
電気・電子機械・生産技術		174,000	127,000	146,500
情報処理・技術		168,000	127,000	144,412
化学系生管・品管・測定・分析		169,000	129,000	145,515

高等学校

海外修学旅行

本校初めての海外修学旅行が、昨年11月に2年生を対象として台湾で実施されました。日程は4泊5日で、普通科204名、工業科200名の生徒が参加しました。一昨年中国で高知学芸高校の列車事故があり、一時はその実施も危ぶまれましたが、一年前から取り組まれてきただけに、その時点での変更はむずかしく、慎重に検討を重ねて実施に踏み切りました。

当日は、早朝の集合にもかかわらず一名の遅刻も、欠席もなく出発することができ、生徒の修学旅行にかかる期待の大きさを感じました。一つ一つのできごとが、ほとんどの生徒にとって初めての貴重な体験であったに違いなく、生徒の反応からも本校として始めて行われた海外旅行は、成果も十分にありがた成功であったと確信しております。

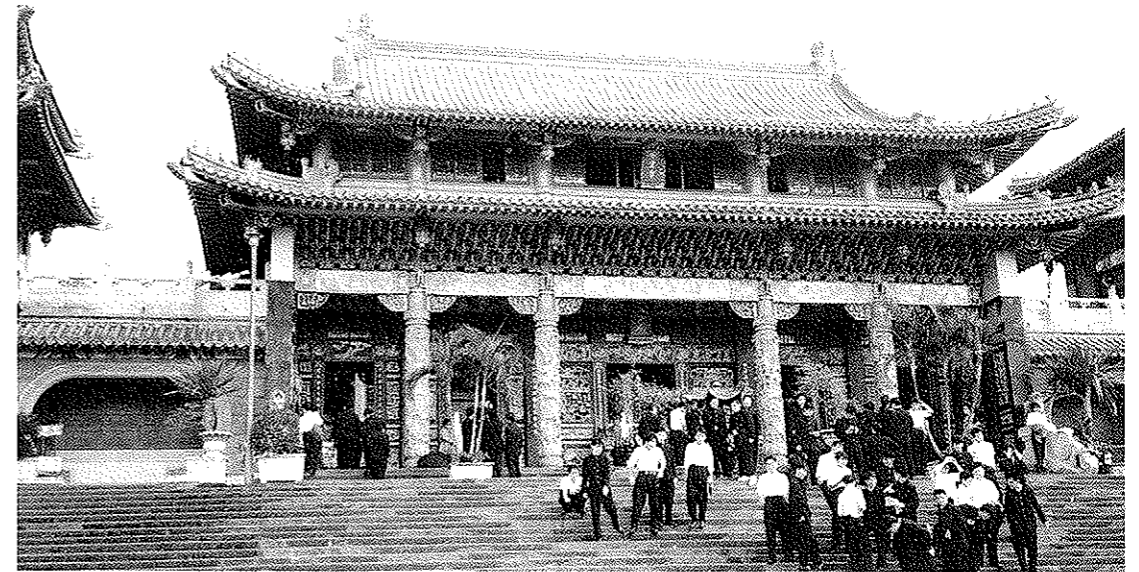
自然科学部の活躍

すでに文部大臣奨励賞の実績を持つ、本校自然科学部が、新たに「超電動モータの研究」に取り組み、63年度の「日本学生科学賞」に入賞し、「東京都優秀賞」の栄誉に輝きました。顧問の後藤先生は、「研究に取りかかって一年目であり、あまり期待はしていなかったが、これで部員も意を強くし、今年度はより研究を重ね、文部大臣賞をねらいます。」と話されており、教職員一同は大いに期待しております。

進学・就職状況

2月末現在の進学決定は、工学院大学136名、秋田経法大3名、拓殖大2名、帝京大・盛岡大・多摩大・大正大・理科大Ⅱ部に各1名、工学院大学専門学校に51名、他の専門学校に90名。

また、就職については、例年以上に好調で昨年10月末で希望者63名全員が決定、自営を含め72名となりました。主な就職先は、ファナック・日野自動車・富士重工・日産自動車・日本電気・沖電気・コニカ・西武不動産・秋川市役所などである。



第8回全国大会（富山大会）開催の報告

「工学院大学学園創立100周年記念事業を成功させよう」をスローガンに、63年7月23日(土)、富山市内の「名鉄トヤマホテル」を会場にして、全国各地から200名近くの参加者を迎えて、盛大に開催されました。

当日は〔第1部〕大会、〔第2部〕講演会、〔第3部〕懇親会をもって構成され、〔第1部〕は富所副会長の開会の辞、山本大会実行委員長（富山県部長）、足立大会会長（校友会会長）の挨拶に続き、松浦理事長代理、北郷学長の祝辞を受けました。

引き続き、関戸総務部長より、校友会の最近の情勢について詳細な報告の後、「学園創立100周年記念事業を成功させよう」の主旨に賛同しつつ、南雲事業部長の閉会の辞をもって第1部を終了しました。

なお、学園には大会記念として、国指定伝統工芸品の「井波木彫獅子頭」が大会実行委員長により贈呈されました。

〔第2部〕の講演会では、講演に先立ち「100周年記念事業募金」について、校友会会長より理解と協力の依頼があり、続いて「誇りある学園再開発と展望について」と題し、「新宿校地再開発事業による超高層都心型大学学園の建設」「21世紀に向かって教育のあり方と新学園像の創造」等、本学園の広大な将来構想が松浦常務理事より講演され、最後に本校出身タレント、ハナ肇氏の講演に移り、体験上の処世訓等がユーモアもまじえて話され、いずれも満員の聴衆を魅了しました。

〔第3部〕懇親会は記念撮影の後開催され、山崎副会長の挨拶、来賓祝辞、各同窓会長挨拶と続き、会場では校友が旧

交を暖め合い、また、仲間と学園の将来を語り、全国大会は次第に熱気に包まれるうち、「越中おむら民謡保存会」の歌と踊り等、楽しいひとときを過ごしなが、2年後の全国大会に想いをはせ、最後に学園の発展と、校友会の隆昌を祈念した〔万才〕でもって大会は無事終了いたしました。

翌日は〔立山・黒部アルペンルート〕に出発しましたが、あいにく梅雨明けおくれの小雨模様。車窓は幽幻な霧が流れるばかりでしたが、幸いに黒部ダムでは一時ガスが晴れ、壮大な景観に参加者一同富山大会の最後の旅情にひたることが出来ました。

今回は大会に先立ち、全国支部長会議の開催、さらにスライドによる学園の今昔と富山県「いきいき富山」紹介がありました。

なお、この大会を開催するに当り、本部役員、事務局、富山県支部役員の方々の努力と、さらに受付その他への富山県支部の奥様方の積極的協力、そして事業紹介、広告協賛等本大会の成功への御協力を心より深く感謝する次第であります。（富山県支部長 山本修）



ご挨拶

前校友会会長 足立 剛一

会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は校友会の活動に多大のご協力を賜りありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

さて、新宿校地再開発事業に伴う第一期工事（大学棟）も7月末の竣工を目指して、日一日と大きな姿をあらわして来ました。今後新しい「都心型学園」として事業を行うために高山理事長が提唱されている学術文化センター構想、又、学園経営の基本となるビジョン策定のために松浦開発本部長のもとで幅広い諸施策について、トップセミナー等を行い検討されております。さらに富子常務理事の私学が生き残るための経営理念に基づいて、今後の学園の発展策等が発表され、過去本学に於て例を見ない経営方針のもとに、着々とこれらの計画が実施されております。新しい大学棟の竣工を機に、学園全体が新しい経営理念にそって生まれ変わろうとしています。このように、今学園で計画されつつある諸施策について、校友会もこれを強力で推進できるよう協力しなければなりません。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。高、学園発展のためにご尽力されている高山理事長をはじめ、諸先生方に感謝申し上げます。

又、学園創立100周年記念募金事業につきまして会員の皆様にお願ひ致しましたところ、今年度も昨年を上回る全国の会員の皆様のご協力により、多大のご援助を頂きました。誠にありがとうございます。特に今年度は支部活動が一段と充実し、北は北海道から南は台湾に至るまで全国各地に於て支部総会が開催されました。同時に、本部と支部との関係がさらに充実され

るようになりました。ここに、各地に於て支部活動にご尽力を賜っている支部長をはじめ、会員の皆様に厚く感謝申し上げます。今後共末永く支部活動にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。尚、昨年7月には第8回全国大会（富山大会）を富山市に於て開催致しましたところ、富山県本支部長をはじめその役員と多くの支部会員の方々のご協力のもとに盛大に行うことができました。北郷学長をはじめ諸先生方並に、全国からご参加をいただいた会員の皆様にお礼申し上げます。

さて、今年度は校友会の役員改選にあたり、新年度から新しい体制のもとに会を運営することになります。この3年間、心温まるご協力をいただいたことに感謝申し上げますと共に、今後共学園と校友会発展のためにご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（平成元年2月28日）

新宿校舎本館コンクリート片進呈について

この度新宿校地再開発のため、昭和3年に建てられた校舎を取り壊すことになり、一部取壊しました。その本館のコンクリートの切り取った塊です。

ご希望があれば記念品として贈呈いたします。希望者は「はがき」で事務局まで申し込んでください。電話による申し込みはいたしません。

社団法人工学院大学校友会

●支部だより

■秋田県支部だより

秋田県支部では、63年8月工学院大学空手部が秋田県男鹿北湯本において合宿を行っておいりましたので、陣中見舞を兼ねて支部長以下5名で慰問に行き部員を励まし懇親を深めて参りました。部員も先輩の来訪に非常に喜んでおいりました。

秋田県支部長 諸沢 忠男

■千葉県支部だより

千葉県支部は、昭和30年6月に発足して、来年平成2年5月に35周年を迎えます。

この35周年を記念して、記念誌を発行することが決まりました。

内容としては、千葉県支部の歴史、工学院大学の状況など、歴史に残る35年誌を編集する予定にしております。支部会員のご協力をお願いいたします。この35年誌編集の準備打合せを3月5日6日一泊にて熱海市網代において行い準備に入りま

した。また、校友会の全国の支部においても、支部発足以来30年或は35年を過ごしている支部があると思われませんが、年誌発行は先年川崎支部において発行され非常に感銘を受けました。このような企画を今後全国に普及することを期待します。

千葉県支部総会のお知らせ

日時 平成元年7月2日(日)12時～

場所 千葉市中央港1-16-5

千葉玉姫殿 (0472-47-5511)

連絡先 支部事務局 (0474-48-4811)

◎当日は変貌する幕張メッセ周辺の見学を予定しております。

◎平成2年度には「千葉県支部創立35年史」を発刊致します。(希望者を募る)

千葉県支部長 佐藤 正吾

校友会新役員

自平成元年4月1日～至平成4年3月31日

会長 丹羽 宏之	総務部部長 池田 和夫	企画部部長 小高 鎮夫	事業部部長 吉岡 陽一
副会長 (総務担当) 山崎 隆一	総務部理事 荻島 国幸	企画部理事 青野 毅	事業部理事 杉山 助一
〃 (財務担当) 南 迫 哲也	〃 高橋 静昭	〃 高木 成幸	〃 山田 文昭
〃 (企画担当) 佐合 道也	〃 金尾 武彦	〃 井出 英人	〃 内山 昭太
〃 (広報担当) 大谷 一夫	〃 山本 清	〃 阿部 海	〃 北沢 興一
〃 (事業担当) 関戸 岐	〃 住野 和男	〃 丸山 篤	〃 遅野井 孝夫
〃 (組織担当) 南雲 芳夫	財務部部長 大柳 康	広報部部長 宮沢 正義	〃 滝島 平八郎
〃 (組織担当) 後藤 弘太郎	財務部理事 永島 正義	広報部理事 八木 平八郎	〃 恒松 良一
〃 富所 良二	〃 間富 真佐人	〃 伊藤 太一	〃 小野塚 政雄
〃 寺島 敬二	〃 中場 十三郎	〃 竹本 正勝	〃 溝上 俊治
	〃 谷口 宗彦	〃 岩田 俊二	〃 松為 迪夫
	〃 中島 孝明	〃 高橋 孝治	〃 篠原 梅吉
	〃 上野 壽幸	〃 太田 雅康	〃 酒井 史生
			〃 石 成和男

●部会報告

総務部

総務部は、各部門の調整と常任理事会、理事会及び総会、評議委員会のとりまとめが主な業務となっております。これらの業務を通じて常に心がけたことは、第一に校友の親睦であり、第二に本学の発展であり、第三に学生への援助協力であります。63年度を振り返ってみると、必ずしも満足できるものではありませんが、着実に一歩一歩前進し、校友の交流の一助ができたものではないかと思っている。以下63年度の活動の一端を報告致します。

第1回理事会 (63. 4. 15)

- 議事 1. 62年度事業報告及び決算について
2. 表彰者追加について

第2回理事会 (63. 9. 30)

- 議事 1. 予備費支出について
2. 給与規定一部改訂について
3. 成績優秀学生表彰について
4. 次期役員選出について

第3回理事会 (63. 12. 9)

- 議事 1. 次期評議会議員及び役員候補の確認
2. 校友会創立90周年記念式典について

第4回理事会 (平成元年3月17日)

- 議事 1. 次期会長及び監事候補について
2. 次年度事業計画及び予算について
3. 賛助会費取扱い規定改定について
4. 表彰者決定について

昭和63年度事務報告

1. 会議の開催状況は下記の通り。
評議員会 (63. 5. 29)
総 会 (63. 5. 29)
次期評議員集會 (元. 3. 26)
支 部 長 会 (63. 7. 23)
理 事 会 (4回)
常 任 理 事 会 (7回)
総 務 部 会 (3回)
財 務 部 会 (5回)
広 報 部 会 (5回)
企 画 部 会 (3回)
事 業 部 会 (2回)
組 織 部 会 (3回)
監 査 会 (1回)

この他、各種委員会等が多数開催された。

財務部

昭63年度は、前年度の経済不調の影響もあったが、日本経済大国としての強みもあり回復ムードのため、校友会活動に差程の関連もなく平成の時代に引継がれる。活動面では学園創立100周年記念募金活動を活発に行い、各支部での総会に本部役員も多数参加したこと、ならびに富山支部で開かれた全国大会にも多数参加され盛会の裡に終了したことなど多彩な行事を無事行うことができた。財政面でも従来通りの健全性を保ち得たものは、校友会はじめ支部役員および同窓各位の御盡力の賜物と受けとめている。

校友会の長期ビジョンから見ると、安易に満足できない状況にあるため、短中期計画よりも長期にわたるビジョンをもつことが必要であり、それに対応した方針をより

進めて行かなければならない。しかし具体的な良案もまだ見つけられていない。財務部会も2ヶ月に一回の割合で開催しているが、いつもこの点になると議事がまとまらない状況である。

今後さしづめ、支部活性化とより活動活発化のために財政面で期待できるのは、賛助会費であることから、校友諸氏には是非一人でも多く、賛助会費を納入して戴ければ幸いであり、衷心からお願いする次第である。



● 部会報告

企画部

富山全国大会及全国各支部総会で見て頂いてます“工学院大学学園の発展と校友会の歴史”のスライドを作成し、今年“工学院大学校友会創立90周年記念行事”を

事業部

昭和63年度の事業部としては、会報の事業報告書通りの事業を行ってまいりましたが、特に今年、2年に一度の第8回全国大会富山大会が、7月23日富山市の名鉄トヤマホテルで開催され、同時に、組織部主催の63年度全国支部長会議が開かれ、足立会長を始め役員と、24支部長を含めた45名の出席、組織部長吉岡陽一氏のもとに、組織部理事溝上俊治氏の司会進行で、和気藹々のうちに、盛り上がった意義ある支部長会議となりました。全国大会富山支部は、北郷学長、松浦開発本部長、黒谷高等学校長及び鈴木専門学校長など来賓多数の御出席を賜り、松浦開発本部長の新宿再開発を中心とした。講演は、工学院大学の前途に大きな希望と発展を予想し、出席者一同の胸をうち、更に、校友である、ハナ肇氏のユーモアある人生観の講演は、笑いの中に感動を受け、大盛會となり、次期の第9回全国大会を、静岡大会と決定、静岡大会は、更に盛會にしようと誓い合って散会、翌日は立山、黒部の大自然を見学し、有意義な富山全国大会であったが、富山支部会員特に役員御苦労には、心から感謝申し上げます。

又第9回全国大会（静岡大会）は、静岡駅前の静岡ター

組織部

昭和63年度支部総会報告

昭和63年度は不活性支部の活性化を行い前年より2割増しの31支部に於いて、支部総会が開かれ、600名に近い会員が参加されました。

又、100周年記念募金事業に伴う地区懇親会を、東京、四国、九州、3地区に於いて、各支部長、支部役員協力により開催されました。

昭和63年度の支部総会開催地区は次の通りです。

4月20日 広島県支部 (19名)

主体に活動致します。併せて来年度発刊にむけて“校友会創立90年誌”の編集に着手致します。支部及同窓会各位の御協力をお願い致します。

ミナルホテルにきまり、すでに山崎支部長を中心に、第1回準備会を静岡で、第2回を富士市で、第3回を浜松市で開き、大勢の校友会員が熱心に討議されております。私も第4回広島大会から京都大会、江ノ島大会、千葉大会と第8回富山大会をお手伝いして参りましたので、この経験を生かして微力をつくし、是非共大盛會にと思っております。

全国の校友の皆様1人でも多く静岡大会に参加して、全国大会に御協力賜り度く御願ひ申し上げます。

尚今年1月の新年会は、天皇の崩御で喪中の為、自粛させていただきました。楽しみにしていた諸兄には、本当に申し訳ございませんでした。来年の平成2年の新年会は、今年分も含めて盛大な新年会を企画しておりますので、大勢の御出席をお待ち申し上げます。

又、事業部では、皆様からの事業企画やら御意見を、お待ちしておりますので、是非校友会本部迄お寄せいただければ幸と存じ上げる次第です。

最後に校友の皆様発展と御多幸を心よりお祈り申し上げます。

(工学院大学校友会副会長富所良二)

- 24日 岐阜県支部 (7名)
- 5月1日 千葉県支部 (30名)
- 15日 渋谷支部 (3名)
- 28日 多摩支部 (10名)
- 29日 秋田県支部 (15名)
- 6月5日 愛知県支部 (26名)
- 19日 栃木県支部 (32名)
- 19日 山形県支部 (16名)
- 26日 八南支部 (12名)

- 7月1日 東芝支部 (23名)
- 23日 富山県支部 (全国大会兼)
- 30日 大阪支部 } (全国総会45名)
- 〃 京滋支部 }
- 31日 台湾支部 (6名)
- 8月6日 北海道支部 (31名)
- 27日 兵庫県支部 (24名)
- 9月4日 島根県支部 (12名)
- 17日 香川県支部 (10名)
- 18日 愛媛県支部 (9名)
- 10月16日 宮城県支部 (38名)
- 11月6日 新潟県支部 (12名)
- 9日 荒川支部 (10名)
- 11日 川崎支部 (24名)
- 12日 福岡県支部 (41名)
- 13日 大分県支部 (15名)
- 23日 青森県支部 (10名)
- 12月4日 台湾支部 (10名)

- 10日 江東支部 (15名)
- 25日 湘南支部 (12名)
- 2月5日 愛知県支部 (新年懇談会)
- 26日 長崎県支部 (16名)

尚、本年も各地区の支部の交流総会が前年以上に盛大に開催できるよう協力体制をもって、支援し、又、不活性支部の活性化、地区懇談会等も計画立案中です。

学園並びに校友会の発展のため、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

63年度は次の方々

新しい支部長に就任されました。

- 宮城県支部 山本正剛氏
- 鳥取県支部 尾崎明雄氏
- 愛媛県支部 曾我峰雄氏
- 長崎県支部 江口 健氏
- 大分県支部 橋崎政雄氏
- 日本電気支部 田中芳朗氏

学園創立百周年記念事業

募金状況について

(平成元年3月末現在)

各 同 窓 会	金 額 (円)
機 械 同 窓 会	17,012,146
応 化 会	16,293,000
電 気 同 窓 会	14,523,000
建 築 同 窓 会	15,821,000
高 校 同 窓 会	9,733,000
専 門 同 窓 会	14,576,000
工 手 学 校	10,524,000
合 計	98,482,146

過去2年間の校友会各同窓会別募金申込み状況は次のとおりでした。目標額達成まで今年もご協力下さるようお願い申し上げます。

校友会個人別募金基準額

- ・昭和42年以前卒業生 3万円以上
- ・昭和43年～53年卒業生 2万円以上
- ・昭和54年～平成元年卒業生 1万円以上

期間は5年間ありますので毎年基準額をご協力頂ければ目標(校友会3億円)達成ができます。

工学院大学校友会創立90周年記念式典及祝賀会開催のお知らせ

校友会々長 丹羽 宏之

◎日 時 平成元年11月11日(土)

(I) スケジュール

- (1) 超高層大学棟見学会
- (2) 創立90周年記念式典 大学棟28階
- (3) 創立90周年記念祝賀会 同 3階
- (4) 記念講演会

(II) 会 費 未定

- (III) 参加予約
- 参加予約出席希望者は6月中旬迄に校友会本部へはがきで申し込んで下さい。

● 校友会だより

◆ 表彰

昭和63年5月第32回総会において表彰

1. 元本部役員関係

遠藤 鎮雄	吉田 義雄	堀内 通利
加藤 喜太郎	松島 一郎	正木 健三
穂本 素行	三田村照治郎	関 善司
山下 與作	加登 数太郎	

2. 支部長関係

今野 正治	市川 光雄	後藤 正春
鈴木 綱五郎	鈴木 正雄	久保 政三
諸澤 忠男	古屋 留三	松井 正長
細谷 繁雄	石川 太一	風間 治作
菊地 忠雄	鈴木 金次郎	金子 貞治
阿久津 利	片岡 好之助	道家 長松
小倉 武	杜 瑞 昌	関野 輝次
小出 虎男	牧 野 一	

◆ 寄付

八木平八郎理事より映写機一式 (20万円相当) の寄付を頂きました。(昭和63年9月)

◆ 褒章

広島県支部長 舩井寛一氏 (造船108回卒)

昭和63年秋監製褒章を受賞されました。

計報 練馬支部副支部長	岡田一良	61. 9. 12逝去
福井県支部副支部長	原林次郎	62. 9 逝去
川崎支部幹事	中川隆二	63. 11. 24逝去
評議員	宮本隆一	63. 11. 24逝去
埼玉県中央支部副支部長		

謹んで哀悼の意を表します

◆ 成績優秀学生表彰 (S63年)

校友会では、毎年本学園の成績優秀学生生徒に表彰を行い奨学金を贈与しています。昭和63年度は、10月31日学園創立記念日に表彰を行った。

種別	学 科 学 年	氏 名
大 学 院	機械工学専攻修士課程2年	小 島 卓
	工業化学専攻修士課程2年	桜 井 宏 之
	電気工学専攻修士課程2年	布 川 久 幸
	建築学専攻修士課程2年	小野里 憲 一
大 学	機械工学科2年	加 藤 友 規
	〃	松 本 宏 行
	〃	山 崎 浩 昌
	工業化学科2年	楠 原 章
	〃	後 藤 良 孝
	化学工学科2年	鈴 木 重 和
	電子工学科電子工学コース4年	大 森 達 也
	〃 情報工学コース4年	江 原 浩 二
	電気工学科4年	川 上 裕 子
	建築学科2年	鈴 木 敬 吾
〃	中 村 准 二	
〃	米 山 浩 一	
専 門 学 校	土木科2年	益 子 裕 明
	建築科2年	山 下 和 彦
	電気科2年	上 久 保 昌 幸
	応用化学科2年	葉 健 良
高 校	機械科2年	村 田 善 功
	普通科2年	上 園 恭 弘
	建築科3年	新 津 秀 之

社団法人 工学院大学校友会

第44回評議員会 第33回総会 開催のお知らせ

会長 丹羽 宏之

日 時 平成元年5月28日(日)13時~15時

場 所 工学院大学講堂(新館4階)

議 案 (資料参照)

- 第1号 昭和63年度事業報告並びに収支決算報告承認の件
- 第2号 昭和63年度財産目録承認の件
- ◎監査報告

第3号 平成元年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件

- (注1) 本誌に同封の郵便はがきにより、折返し出欠の有無をご回答下さい。
- (注2) 施行細則第10条により、当該議事について意志表示のない場合は、同意の意志表示とみなして、出席者数に加えることができますのであらかじめご了承下さい。

昭和63年度事業報告書

事業に関する定款条文	事 業 内 容
学校の教育施設の改善に関する助成 (定款第5条第1項)	1. 学園将来計画に協力
学校に在籍する学生、生徒の学修活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1. 学生、生徒の研修援助 優秀な学生には各学校毎に表彰
会誌および学術図書等の刊行 (定款第5条第3項)	1. 校友会々報の発行 2. 会員名簿の刊行 学園コンピューターシステムによる会員名簿の作成
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1. 学術講演会や見学会を開催
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置 (定款第5条第5項)	1. 全国大会の開催 2. 支部の支援、支部組織の活性化を図る 3. 将来校友会館を建設するための具体的計画を促進し実行するよう努力
学校の行なう就職あっせんおよび紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1. 就職あっせん、事業所の紹介等
その他目的を達成するために必要な事業 (定款第5条第7項)	1. 学校法人工学院大学創立百周年記念募金に協力

収支計算書

昭和63年4月1日より平成元年3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	科 目	予算額	決算額	差 異
I 収入の部				企画部費	250,000	247,330	2,670
1 基本財産収入	(450,000)	(535,950)	(85,950)	賛助会費割戻金	1,000,000	691,800	308,200
基本財産利息収入	450,000	535,950	85,950	2 運営費	(9,185,000)	(7,337,709)	(1,847,291)
2 会費収入	(33,650,000)	(33,662,500)	(12,500)	本部会議費	654,000	509,000	145,000
機 械	4,516,000	4,516,000	0	役員交通費	600,000	310,240	289,760
応 化 会	3,363,000	3,363,000	0	旅費交通費	200,000	111,540	88,460
電 気	6,466,000	6,466,000	0	通 信 費	4,861,000	4,583,256	277,744
建 築	4,375,000	4,375,000	0	振替手数料	80,000	62,600	17,400
高 校	5,845,000	5,845,000	0	事務用品費	770,000	486,098	283,902
専 門	9,085,000	9,097,500	12,500	消耗備品費	50,000	2,450	47,550
3 賛助会費収入	(2,500,000)	(4,234,540)	(1,734,540)	印刷製本費	980,000	868,450	111,550
賛助会費	2,500,000	4,234,540	1,734,540	修 繕 費	100,000	69,800	30,200
4 事業収入	(100,000)	(38,680)	(61,320)	貸 借 費	140,000	132,000	8,000
寄附金収入	100,000	38,680	(61,320)	材 外 費	100,000	16,440	83,560
5 雑収入	(3,050,000)	(5,384,620)	(2,334,620)	慶 弔 費	500,000	157,600	343,000
受取利息	3,000,000	5,349,690	2,349,690	公租公課	100,000	6,660	93,340
雑収入	50,000	34,930	(15,070)	雑 費	50,000	22,175	27,825
当期収入合計(A)	39,750,000	43,856,290	4,106,290	3 人件費	(7,502,000)	(7,153,636)	(348,364)
前期繰越収支差額	7,394,000	14,756,252	7,362,252	給与手当	7,152,000	6,805,062	346,938
収入合計(B)	47,144,000	58,612,542	11,468,542	退職給与引当繰入	300,000	298,574	1,426
				福利厚生費	50,000	50,000	0
II 支出の部				4 積立預金支出	(11,800,000)	(13,422,601)	(1,622,601)
1 事業費	(8,810,000)	(7,490,130)	(1,319,870)	会館積立預金	10,000,000	10,000,000	0
学園協力費	1,500,000	1,500,000	0	賛助会費積立預金	1,500,000	3,122,601	(1,622,601)
会報出版費	1,850,000	1,844,400	5,600	引越積立預金	300,000	300,000	0
学生奨励金	500,000	480,000	20,000	6 予備費	(2,453,000)	(1,850,135)	(602,865)
支部対策費	1,860,000	1,428,680	(431,320)	予備費支出	2,453,000	1,850,135	602,865
總會等大会費	1,080,000	839,600	240,400	当期支出合計(C)	39,750,000	37,254,211	2,495,789
広報部費	160,000	6,675	153,325	当期収支差額(A-C)	0	6,602,079	6,602,079
組織部費	200,000	174,580	25,420	次期繰越収支差額(D)	7,394,000	21,358,331	13,964,331
事業部費	410,000	277,065	132,935				

(注) △は収入の部は減、支出の部は超過を示す。

(注1) 予備費内訳 1 社会保険料496,935 2 電話加入権72,800 3 FAX50,400 4 PRスライド作成1,230,000

貸借対照表

平成元年3月31日現在

(単位:円)

財産目録

平成元年3月31日現在

(単位:円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額	資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
1 流動資産	25,975,793	1 流動負債	34,450	流動資産		負債	
2 固定資産	148,718,804	2 固定負債	76,982,377	1 現金・預貯金	961,655	1 振替預り金	34,450
		3 正味財産	97,677,770	2 短期有価証券等	25,011,138	2 在学生会費預り金	74,999,250
		(うち基本金)	(10,000,000)	固定資産		3 退職給与引当金	1,983,127
				1 基本財産引当預金	10,000,000	正味財産	97,677,770
				2 什器備品	1,298,802	(うち基本金)	(10,000,000)
				3 電話加入権	102,800		
				4 長期預金	137,317,202		
合 計	174,694,597	合 計	174,694,597	合 計	174,694,597	合 計	174,694,597

平成元年度事業計画(案)

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設の改善に関する助成 (定款第5条第1項)	1. 学校法人工学院大学と協議の上で援助する 2. 学園将来計画に協力する
学校に在籍する学生、生徒の学修活動 および就職指導ならびに教職員の調査 研究の助成 (定款第5条第2項)	1. 学生、生徒の研修援助 優秀な学生には各学校毎に表彰する
会誌および学術図書 of 刊行 (定款第5条第3項)	1. 学友会々報の発行 2. 会員名簿の刊行 学園コンピューターシステムによる会員名簿の作成
学術に関する講演会および見学会等の 開催 (定款第5条第4項)	1. 学術講演会や見学会を開催する
会員相互の親睦提携および学校との連 絡を図るに必要なる施設の設置 (定款第5条第5項)	1. 新年懇親会等の開催 2. 支部の支援、支部組織の活性化を図る 3. 将来校友会館を建設するための具体的計画を促進し実行する よう努力する
学校の行なう就職あっせんおよび紹介 に関する援助 (定款第5条第6項)	1. 就職あっせん、事業所の紹介等を行なう
その他目的を達成するために必要な事 業 (定款第5条第7項)	1. 学校法人工学院大学創立百周年記念募金に協力する 2. 校友会創立90周年記念事業を行う

平成元年度収支予算書(案)

平成元年4月1日から平成2年3月31日まで

(単位千円
△印は前年度より減を示す)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	科 目	予算額	前年度予算額	増 減
1 収入の部				旅費交通費	200	200	0
基本財産収入	516	450	66	通信費	4,989	4,861	128
会費収入(6単体)	36,114	33,650	2,464	振替手数料	80	80	0
賛助会費収入	2,500	2,500	0	事務用品費	720	770	(50)
事業収入	100	100	0	消耗備品費	200	50	150
雑収入	5,082	3,050	2,032	印刷製本費	1,320	980	340
引越引当積立金取崩収入	300	0	300	修繕費	100	100	0
当期収入合計	44,612	39,750	4,862	貸借費	208	140	68
前期繰越収支差額	21,831	7,394	14,437	対外費	200	100	100
収入合計	66,443	47,144	19,299	慶弔費	350	500	(150)
				公租公課	130	100	30
2 支出の部				雑 費	50	50	0
● 事業費	(12,180)	(8,810)	(3,370)	引越諸経費	300	0	300
学園協力費	1,000	1,500	(500)	● 人件費	(9,015)	(7,502)	(1,513)
会報・出版費	1,700	1,850	(150)	給与・手当	7,110	7,152	(42)
学生・生徒奨励金	500	500	0	退職給与引当金繰入	1,135	300	835
支部対策費	2,340	1,860	480	福利厚生費	770	50	720
總會等大会費	450	1,080	(630)	● 固定資産取得支出	(4,300)	(0)	(4,300)
広報部費	150	160	(10)	● 積立預金	(6,500)	(11,800)	(5,300)
組織部費	200	200	0	積立金	5,000	10,000	(5,000)
事業部費	160	410	(250)	賛助会費積立金	1,500	1,500	0
企画部費	100	250	(150)	引越積立預金	0	300	(300)
賛助会費割戻金	1,000	1,000	0	● 予備費	(2,616)	(2,453)	(163)
90周年式典費	4,580	0	4,580	当期支出合計	44,612	39,750	4,862
● 運営費	(10,001)	(9,185)	(816)	次期繰越収支差額	21,831	7,394	14,437
本部会議費	654	654	0	支出合計	66,443	47,144	19,299
役員交通費	500	600	(100)				

八王子校舎セミナーハウス(大学)



この建物は、初代学長野口尚一先生の邸宅であったが、野口先生ご逝去後、本学が購入して昭和62年よりセミナーハウスとして使用しているものです。
八王子校舎に隣接した高台にあり、眺望のよき閑静な実にすばらしい位置にあります。